

一次の文章は、萩原浩の小説『時のない時計』の一節です。母から渡された亡くなった父の形見の時計を修理するために、時計屋に足を運ぶ場面です。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。問題の作成上、本文の一部を省略してあります。

「ねえ、これ、貰<sup>もら</sup>つてくれない？」

携帯電話が時計がわりの息子や娘と違<sup>ちが</sup>って、私は外へ出る時に腕時計がないと落ち着かない世代だ。だが、その私にさえ、父の時計は、時代遅れの無用の品に思えた。

① 針が動いていない。

② 「こういうの、使わないからなあ」

③ 断<sup>ことわ</sup>つたのだが、母は引き下がらなかった。私の母の疑問符<sup>ぎもんぷ</sup>つきの問いかけは、たい

ていの場合、断定と同じだ。

※「形見分けよ。お父さんの分身だと思つてさ。いい時計のはず。お父さん、けっこうおしやれだつたから。」

④ いい時計。情けないが、その言葉に心が動いた。文字盤に刻まれているのは、ブランドに興味のない私でも、知<sup>し</sup>っている海外のメーカーの名だった。もしかしたら、骨董<sup>こどう</sup>的な価値のある品かもしれない、と思つてしまったのだ。

私鉄の駅前から続く商店街は、古びた小さな個人商店ばかりだが、店舗の数と長さは界限<sup>かいがい</sup>では有名で、端<sup>は</sup>から端まで歩けば、暮らしに必要なたいていのものが揃<sup>そろ</sup>えられる。

めざす店はアーケードを抜<sup>ぬ</sup>けた先、商店街のはずれ近くにあつた。

『鈴宝堂』

浮<sup>う</sup>き出し文字の金色が剥<sup>は</sup>げかかった看板も、戸口の周囲だけ煉瓦<sup>れんが</sup>で縁取<sup>ふちどり</sup>りした造りも、昔ながらの店構<sup>みせがま</sup>えが並ぶ中でも、古<sup>ふる</sup>めかしかった。ここに時計屋があることは以前から知つていたが、入るのは初めてだ。

数秒間戸口に立ちすくんでから、自動ドアではないことに気づいて、引き戸に手をかける。

ペルシヤ絨毯<sup>じゅうたん</sup>みたいな壁紙<sup>かべがみ</sup>の模様。何十年も前にはおしやれだったのだろう、白い木枠<sup>きわく</sup>にガラ

スをはめこんだ陳列<sup>ちんれつ</sup>ケース。引き戸の先の店内も、昔に時を止めてしまったかのよう

だ。

(中略)

当たり前だが、狭い店内は時計であふれていた。正面の壁には振り子時計が並び、てんでばらばらに振り子を揺<sup>ゆ</sup>らして、不揃<sup>ふそろ</sup>いな音を響<sup>ひび</sup>かせている。

④ ちつちつちつちつ。

かちこちかちこち。

ていんくていんくていんく。

針が指しているのは、いま現在の時刻だ。時計によって微妙<sup>びみょう</sup>にずれているが、三時五十分前後。右手は全面がガラスケースで、上方には壁掛け時計が、棚<sup>たな</sup>になった下方には置き時計が並んでいる。こちらは、どれもが売り物の時計の定石<sup>じようせき</sup>どおり十時九分あたりで針が止められている。時計という時計がいつせいに、私の来訪<sup>らいほう</sup>に眉<sup>まゆ</sup>を吊<sup>つ</sup>り上げているように見えた。

※疑問符<sup>ぎもんぷ</sup>：「？」。はてなマーク。 ※形見分け<sup>かたみわけ</sup>：亡くなった人の物を身内で分けること。

※骨董<sup>こどう</sup>的な：古い美術品や道具のように。 ※界限<sup>かいがい</sup>：その辺り・付近。

※定石<sup>じようせき</sup>：最善の決まった方法。

問一 ① から ⑤ には、次のア～オの言葉が当てはまります。それぞれ適切なものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア とりわけ イ そもそも ウ ずいぶん エ いったんは オ いちおうは

問二 線部①「こういうの」とありますが、その指示内容の説明として最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 時代遅れの時計。 イ 無用の品である時計。

ウ 針が動いていない時計。 エ お父さんの分身の時計。

問三 線部②「たいていの場合、断定と同じだ。」とありますが、この場合、それはどういう意味ですか。最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 疑問符<sup>ぎもんぷ</sup>つきの問いかけは自信の表れだ、という意味。

イ 腕時計がないと落ち着かないはずだ、という意味。

ウ 息子の私が貰<sup>もら</sup>うことは断り切れない、という意味。

エ いい時計であることは間違いない、という意味。

問四 — 線部③「情けないが、その言葉に心が動いた。」とありますが、それはなぜですか。

最も適切なものを次のア、エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 使わない時計だとしぶつたが、形見分けであり、亡くなった父の分身であることを思い出したから。

イ 使わない時計だとしぶつたが、亡くなった父が、けっこうおしやれだったのを思い出したから。

ウ 使わない時計だとしぶつたが、ブランドに興味のない私でも知っている海外のメーカーの名だったから。

エ 使わない時計だとしぶつたが、骨董的な価値のある品かもしれない、と思ってしまうから。

問五 — 線部④「ちつつちつつちつ。／かちこちかちこち。／ていんくていんくていんく。」

という表現（擬音語）実際の音に似せた言葉から、どんなことが読み取れますか。最も適切なものを次のア、エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 狭い店内が時計であふれ、音が響き合っていること。

イ てんでばらばらに、不揃いな音を響かせていること。

ウ 微妙にずれているが、現在の時刻を指していること。

エ 振り子時計や壁掛け時計、置き時計などがあること。

問六 — 線部⑤「私の来訪に眉を吊り上げているように見えた」とありますが、「眉を吊り上げて」

ているように見えた」のはなぜですか。四十字以内で答えなさい。ただし、句読点も一字と数えます。

二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。問題の作成上、本文の一部を省略してあります。

① この世に「最低の学校」というものがあるとすれば、それは教員全員が同じ教育理念を信じ、

同じ教育方法で、同じ教育目標のために授業をしている学校だと思います（独裁者が支配してい

る国の学校はたぶんそういうものになるでしょう）。でも、そういう学校からは「よきもの」は

何も生まれません。これは断言できます。とりあえず、僕は、そんな学校に入れられたら、すぐ

に病気になるでしょう（病気になる前に、窓を破つても、床に穴を掘つても、脱走する

とは思いますが）。僕はそういう「◇」な空間に耐えることができません。どんな場所であ

れ、そこで公式に信じられていることに対して「それ、違うような気がするんですけど」という

意思表示ができる権利が確保されていること、それが僕にとっては、呼吸して、生きていけるぎりぎり唯一の条件です。

勘違いしないで欲しいのですが、「僕の言うことが正しい」と認めて欲しいわけではないので

す。僕が間違っている可能性だってある（だってあるどころかたいいの場合、僕は間違っている

ます）。それでも、みんなが信じている公式見解に対して、「あの、それ、違うような気がする

んですけど」と言う権利だけは保証して欲しい。「僕が正しい」とみんなに認めて欲しいのと違

うのです。ただ、正しい意見に対して、「それは違うと思う」と言っても処罰されない保証を求

めている、それだけです。

教師も生徒も、全員が同じ正しさを信じていて（信じることを強いられていて）、異論の余地

が許されていない学校は、知的な生産性という点から言うと、最低の場所になるでしょう。そ

う学校から、多様な個性や可能性を備えた若者が次々と輩出してくるということは決してない

と僕は思います。というのは、知的な生産性というのは「正しい／間違っている」という二項対

立とは別のレベルの出来事だからです。

ほんとうに新しいもの、ブレイクスルーをもたらすものは、いつだって「思いがけないもの」

です。そんなものが存在するとは誰も思っていなかったものです。それが、そんなところから何

かが生まれてくるなんて誰も思っていなかった場所から生まれ出てくる。そういうものなんです。

いつだって、そうなんです。ほんとうに新しいものは、思いもかけないところから生まれてくる。

ですから、知的生産性という点からすると、学校が多産であるためには、「そんなところから

何か価値あるものが生まれて来るとは誰も予測していなかった場所」がたくさんあることが必要

だということです。薄暗がりとか、用途のわからない隙間とか、A地点からB地点にゆく場合の

最短ルートとは別の迂回ルートとか、坐り込んだら気分がよくて立てなくなってしまうソファ―

とか、意味もなく美しい中庭とか……そういう「◇」たちが群生しているのが知的空間

としては極上だと僕は思います。これは僕が長く生きてきて得た経験的確信です。

※二項対立…二つの事がらが、対立しあうこと。  
※ブレークスルー…困難や障害を突破すること。

問一 線部①「最低」とありますが、本文中で筆者が「最低」と反対の意味で用いている言葉を二字で抜き出さない。

問二 線部②「そういう学校からは『よきもの』は何も生まれません」とありますが、筆者がそういうのはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問三 ④に入る言葉として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 幻想的    イ 閉所的    ウ 日常的    エ 連続的

問四 線部③「多様な個性や可能性を備えた若者が次々と輩出してくる」とありますが、この部分に一箇所だけ読点「、」を打つ場合に、この文を正しく読み取る上で最も不適当なもの、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 多様な個性や、可能性を備えた若者が次々と輩出してくる  
イ 多様な個性や可能性を、備えた若者が次々と輩出してくる  
ウ 多様な個性や可能性を備えた、若者が次々と輩出してくる  
エ 多様な個性や可能性を備えた若者が、次々と輩出してくる

問五 ⑤に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 理由もなく知的好奇心を刺激するもの  
イ 少数の人にしか魅力を感じさせないもの  
ウ じつは意外な利用方法をもっているもの  
エ 何の役に立つのかよくわからないもの

三 次の線部①～⑮の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 傷口を消毒する。                      ② 豊かな暮らしをする。  
③ 花を供える。                            ④ 乗客が増える。  
⑤ 部屋から見る景色がきれいだ。        ⑥ もの知り博士だ。  
⑦ ろうそくの火が燃える。                ⑧ 電車のダイヤが混乱する。  
⑨ 窓ガラスをふく。                        ⑩ 苦い薬を飲む。  
⑪ 運賃をはらう。                          ⑫ 役所に勤務する。  
⑬ 紙を回収する。                           ⑭ 将来の夢を発表する。  
⑮ 敬語を使う。

四 次の線部①～⑮のカタカナを漢字に直して書きなさい。

- ① 都会にスむ。                            ② シオをなべに入れる。  
③ 店員にネタンを聞く。                   ④ 日本のケンボウを勉強する。  
⑤ テレビバングミを確認する。           ⑥ イキオイがある人。  
⑦ 目をサます。                            ⑧ 授業がオわる。  
⑨ 力をこめてマげる。                    ⑩ ケンコウに気をつける。  
⑪ ジョウネツ的な性格だ。                ⑫ コクソウ地帯について調べる  
⑬ モノガタリを読む。                    ⑭ ソウキを提供する。  
⑮ セイジ家になりたい。

五 次の①～⑮の「」に当てはまることばを、次のア～トの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 「」に水  
② 「」もと暗し  
③ 「」は口に苦し  
④ 「」こそ物の上手なれ  
⑤ 「」先に立たず  
⑥ ねこに「」  
⑦ 「」の背比べ  
⑧ 「」の川流れ  
⑨ 転ばぬ先の「」  
⑩ 備えあれば「」なし
- ア うれい    イ かつば    ウ かえる    エ つえ    オ どんぐり  
カ 小判    キ 魚        ク 火事    ケ 焼け石    コ 火  
サ 灯台    シ 好き    ス 立つ鳥    セ 後悔      ソ 良薬

解答用紙

フリガナ  
氏名

[illegible]